

日清オイリオ生活科学研究レポート No.41 食卓に関する調査

- ◆「家族揃って食事をする」ことが大切だと思っている人は90%超
- ◆20代の「理想の食卓」は“にぎやかな雰囲気”

日清オイリオグループ株式会社(社長:久野貴久)「生活科学研究課」は、社会環境や生活者の価値観の変化、それらに起因する生活習慣の動向などについて調査し、情報発信をしています。

農林水産省が実施した「食育白書」によると、家庭内外での“孤食(一人でとる孤独な食事)”の傾向が増加しており、近年社会問題として認知されています。そこで、20～70代の女性を対象に、家族の食事時間や食事内容など、家庭内の食卓に関する意識調査を実施しました。

■ 50代以下の4人に1人が食べる時間を「増やしたい」

食べる時間は、どの年代も「ちょうどよい」の割合が最も高くなるものの、「増やしたい」(「時間を増やしたい」、「時間をやや増やしたい」の合計)割合は30代が31%と最も高くなり、また20代、40代、50代でも約25%となりました。また、「減らしたい」(「時間を減らしたい」、「時間をやや減らしたい」の合計)は割合的に低いものの、60代を除いた年代で数%いることが分かりました。(レポートP4参照)

■ 「家族揃っての食事」が大切だと思う人はどの年代も90%以上

家族揃って食事をするのが「大切だと思う」(「そう思う」、「どちらかというそう思う」の合計)割合はどの年代も90%を超えていました。(レポートP5参照)

■ 30代は平日夕食への不満が多い傾向

平日の夕食に満足していないことは、「レポートリー」の割合がどの年代も最も高くなりました。また、30代は多くの項目において、満足していない割合が高くなる傾向にあるのも特徴的でした。

夕食の定番メニューは、どの年代も「カレー」が最も多くなりました。また、20代～40代は「から揚げ」、60代、70代は「焼き魚・ムニエル」が上位に挙がるのも特徴的でした。(レポートP9参照)

■ 理想の食卓は、20代・30代が「にぎやかな雰囲気」、50代以上が「静かな雰囲気」

理想の食卓として、「家族揃っての食事」や「食事でコミュニケーションをとりたい」などの割合が80%程度となり、DI値※も年代による差はみられませんでした。また、「A:にぎやかな食卓の雰囲気」⇔「B:静かな食卓の雰囲気」、「A:素材は高価でも、旬や自然なものにこだわりたい」⇔「B:素材は安価なものがいい」のDI値は年代による差が大きくなりました。(レポートP12参照)

※:項目Aと項目Bの差

調査概要

調査実施：2019年3月15～17日

調査方法：インターネット

調査対象：20～70代の女性(単身世帯除く)

サンプル数：2,062サンプル

(20代:264人、30代:335人、40代:396人、50代:336人、60代:402人、70代:329人)

◆ 調査結果詳細は[こちら](#)をご覧ください。

【レポートに関するお問合せ先】

日清オイリオグループ株式会社 中央研究所 生活科学研究課

TEL:045-757-5461 〒235-8558 神奈川県横浜市磯子区新森町1番地

【リリースに関するお問合せ先】

日清オイリオグループ株式会社 コーポレートコミュニケーション部 広報・IR課

TEL:03-3206-5109 〒104-8285 東京都中央区新川一丁目23番1号